

【 果 樹 】

果実全体の入荷量は減少傾向にある。

干し柿類は、福島県産は出荷量の伸びが鈍く年末向けの企画注文分が揃うか揃わないかギリギリの状況での販売となった。

年内の入荷量状況を見ると、年明けに繰越す荷はあまり多くない見込みから、新年当初は動きは良いが連休以降はピークで増量となるので、相場も含めた拡販体制を取る必要が出てくる。

<あんぽ柿>

パック品は年内が不足感のある中で販売が続いたため、年越しの荷は少ないが今後を見据えてやや弱めた販売となっている。化粧品も需要期が終わり弱めた販売となっている。

「蜂屋 230g トレー」 特秀 5L 350円～ 秀 330円～ 特秀 3L 380円～ 秀 350円～

【 野 菜 】

全国的な寒波の影響で果菜類・葉菜類は入荷が減少となったが、年末に向けた注文を抱える中で不足感が強まり相場を強めた。

本年は、事前発注中心の対応となっていることから、市場内は比較的落ち着いた雰囲気でも年末を迎えている。年明けに関しては、寒波が再来する見込みから休対期間の数量減少にも警戒感を持ちながらの販売となる見通し。

<いちご>

コロナ禍以降、年始に休業する量販店が多い中で、いちごは休対出荷もあったことや、今後の増量を見越して相場を下げ拡販を図る販売となっており、下げ相場展開の見通し。

@ L 450～430円 A 410～380円

<に ら>

寒波の影響で新株の入荷が少なく過不足のない販売となっている。相場は保合展開の見通し。

北海道札幌市場では、入荷量は微減程度となっているが、荷動きは鈍い状況で、相場は保合展開の見通し。

@ A L 110～100円

<春 菊>

生育遅れにより関東産の入荷が見込みよりも多く、末端の荷動きも重いため下げ相場の見通し。

北海道札幌市場では、注文も一定数量はあるが、関東産の在庫を抱えながらの販売となっており、相場は弱保合の見通し。

@ A 220円 ～ 200円